

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務	計画	令和8年度													実行状況〔9月〕		達成	課題と対応	
		実施計画	執行理事	実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(Do)		度	(Check・Action)		
Ⅰ．変化対応力のある人材の育成	(1)社会環境変化に応じた教育研究組織の整備																					
	大学	①データサイエンスプログラムの検証、専門職大学院の定員変更の推進、中長期的な適切な教育研究組織の整備の検討	大学担当	計画													予定通り、8月末に専門職大学院の定員変更に関わる届出を行った。 データサイエンスプログラム（リテラシー・応用基礎）に関する修得状況は、秋学期の成績評価を待って確認する。	50	データサイエンスプログラムに関する学修成果の検証を進める。また、引き続き中長期的な観点で教育研究組織の整備について検討する。			
	大学	②アクティブラーニング対応可能な設備や通信設備の導入など学生の主体的な活動を支える施設等の整備	大学担当	計画													令和7年度に引き続き本館教室を中心にアクティブラーニング対応可能な可動式の机・椅子の整備工事を実施した。また通信設備を活用した配信等の授業展開等を進めるにあたり、ワーキンググループによる検討を行い、方針を決定した。	50	学生の主体的な活動を支える施設等の整備については、計画通り進捗している。今後は、運用方法が課題であり、検討を進める。			
	大学	③高効率機器の導入など脱炭素型施設設備の整備の促進	大学担当	計画													令和7年度に引き続き空調設備についてGHP中心からEHP中心への転換を図る更新工事を進めた。併せて照明設備のLED化を進めた。	50	CO2排出量を抑制し、経済的な効果も期待できるPPAを活用した太陽光発電設備のさらなる導入を検討する。併せてより効率的な電力供給を目的に蓄電設備の導入も検討する。			
	中高	④「教育運営推進室」を起点とした学校の歴史や伝統、社会情勢や地域の実情を踏まえた学校教育の強化	中学・高等学校担当	計画													教務部長が座長となり、国語力、英語力、理数力等6つの柱の教育強化を進めている。	50	今後も6つの柱の教育強化を進める。			
	中高	②光風塾での最難関大学への合格に向けた受験指導の強化	中学・高等学校担当	計画													最難関大学への合格を目指し、高校1年生32名、2年生26名、3年生21名と中学2年生44名、3年生44名を、光風塾講師述べ30人、チューター9名、事務2名と塾頭含め計3名の教諭で継続指導に努めている。また、中学生には「放課後学習支援プログラム」として大学生メンター（東大生を含む毎日5名～6名）による放課後支援、高校生には「OB・OGチューター」による放課後支援も行っている。	50	第2期光風塾選抜試験（10月16日）に向け準備を進めている。			
	(2)多様な学生・生徒等入学者の受入れ																					
	大学	①入試種別の新設、選抜方法の刷新等を通じたアドミッションポリシーに即した学生確保	大学担当	計画													2027年度入試において、普通科高校生を対象とした「特別奨学生選抜(探究成果型)」を新設した。総合型選抜(基礎学力型)の受験者層に対する受験のしやすさを考慮して、実施方法を変更した。一般選抜に関しては、普通科高校からの受験者増を念頭に、受験者数を増やすことを目的として、出願方法を変更した。年内入試で使用する面接シートの質問項目を、受験生目線のアドミッションポリシーをより理解しやすい内容へ変更し、運用方法についても決定した。	75	アドミッションポリシーの適切性の検証とアドミッションポリシーに即した学生確保の方策を引き続き検討する。			
	大学	②指定校制度の導入、スカラーシップ制度の活用による、優秀な外国人留学生確保のための取り組み	大学担当	計画													2026年度入試において指定校制度、スカラーシップ制度を実施し、期待していたものに近い成果を上げた。2027年度に向けて、指定校枠における日本語学校の選定を検討するとともに、スカラーシップ金額の見直しを行い、規程の整備も行った。	75	指定校枠における日本語学校の選定を引き続き検討する。			
	中高	①授業の創意工夫や、生徒一人ひとりへの熱意ある指導への継続的な取り組み推進	中学・高等学校担当	計画													クラッシー（教員と生徒と保護者がつながるICTプラットフォーム）・リアテンダント（自動採点機）・ICT教材（生徒ひとりひとりのタブレット）を利用し授業等を効率よく進めている。また担任と生徒との二者面談、親を含めた三者面談を行い、個々の生徒の目標に沿った指導を行っている。	50	今後も継続していく。			
	中高	②生徒の多様なニーズと進路希望に応えるための多様な海外留学制度の充実	中学・高等学校担当	計画													中学3年ニュージーランド6週間留学（7月15日～8月27日参加者13名）、中学2・3年オーストラリア短期留学（7月25日～8月4日参加者32名）、高校1・2年カナダ短期留学（7月25日～8月5日参加者28名）が海外留学を終え、異文化の中で多くの学びと経験を得た。高校2年英語国際クラスカナダ語学研修（9月25日～10月23日参加者10名）、カナダ長期留学（R8年8月28日～R9年6月30日参加者5名）は、渡航後2週間が経過し、語学研修等が始まっている。	75	R9年1月からの高校1年ニュージーランド1年間留学の準備を進めている。			
	中高	③学校案内やパンフレットのコースの説明を見直し、新たなリーフレットの作成に着手	中学・高等学校担当	計画													新しい学校案内・パンフレット等を作成し、第一回（6月24日）学習塾先生方説明会から配布を始めた。また、令和9年度の入試要項も製本し、第二回（9月10日）学習塾先生方説明会から配布を始めた。	75	今後は、時季に合わせた複数のリーフレットの作成に着手していく。			

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画	令和8年度													実行状況〔9月〕 (Do)		達成 度	課題と対応 (Check・Action)	
		実施計画		実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3						
(3)教育プログラム、学修サポートの充実・向上																						
大学	①プログラムの検証・カリキュラムの見直し検討など入学生の多様化に対応した教育プログラムの充実・向上	大学担当	計画													クォータ科目からセメスター科目に移行した英語・数学・物理科目について、これまでのクォータ制の総括及び新設科目の修得状況について確認し、クラス分けなど概ね良好な状況であることを確認した。留学生対象の言語系科目については、履修上問題なく進行している。	50	キャリア・アントレプレナーシップ科目は、今年度終了時点で修得状況を確認する。 今年度から本格運用している学修ポートフォリオ、成長支援ハンドブックに基づく「学修成果の可視化」の状況も踏まえ、カリキュラム等の更なる充実を検討する。				
			実施																			
大学	②資格取得におけるピアサポートなど新たな自発的主体的な学びの支援	大学担当	計画												資格取得を目指す学生に対するピアサポートについて、学修支援センターと協議した結果、大学院生による支援が望ましいとの結論となり、大学院生との打合せを進めている。修士論文、学会発表やTA等の予定も勘案し、講座の回数や内容について調整を進める。	50	大学院生の諸活動との調整が課題。打合せを進め、より具体的な運用計画を立案する。					
			実施																			
大学	③学生の成長・学修成果を可視化する「学修ポートフォリオ」の実装、アンケート内容の充実と的確なフィードバックの実施などの教学マネジメントの一層の充実	大学担当	計画											質保証WG幹事会を8月に2回開催。9月には質保証WGを開催し、学生に対する学修ポートフォリオ機能の周知方法を各学科教員に発信。9月17日の学年学科別説明会で学生に周知を図るとともに、9月末までに学生に前期の振り返りと後期の目標設定のコメント入力を指示。	75	今年度から本格運用している学修ポートフォリオ、成長支援ハンドブックの充実のため、学生への一層の周知、確実なフィードバックを進めるとともに、実施状況を確認し、よりよいシステムとなるよう多角的に検討する。また、学生アンケートについても充実したものとなるよう検討する。						
			実施																			
中高	①6つの柱に重点を置く「日駒新教育 ハニカム構想」を体系的に具現化する取組みの推進と「ものづくり教育」への注力	中学・高等学校担当	計画											6つの柱の均衡を図るため、取組が十分でなかったものづくり教育に注力し、4月にものづくり体験イベント①「手作りオリジナルオルゴールの制作」（参加者中学生述べ40名）を開催し、夏休みにものづくり体験イベント②「鍛金によるオリジナル皿の製作」（参加中学生述べ31名）、「手作りオリジナルオルゴールの制作」（参加高校生述べ13名）を行った。また、グローバル教育も多種の留学を設定し、実施した。	75	冬休み期間でのものづくり体験イベントの題材を検討する。高校ニュージーランド一年間留学の準備を進める。						
			実施																			
(4)学生生徒のキャリア形成支援に向けたプログラムの充実																						
大学	①キャリア教育と就職支援講座の融合による大学院進学・就職支援	大学担当	計画											就職支援講座を開催し、学生の経験の棚卸と自己分析を行った。また、業界・職種研究を座学で学び、卒業生座談会や企業研究会で、実際に働く人との接点を持つことで職業観の醸成を行った。	50	－						
			実施																			
大学	②学年別「成長支援ハンドブック」による年間目標設定・振り返りを通じた成長実感の醸成	大学担当	計画											秋学期学年別学科別説明会にて、1年生に改めて学修ポートフォリオと成長支援ハンドブックの位置づけについて周知を図り、学生生活面での振り返りと計画立案の必要性について説明。	75	成長実感を可視化するツールの一つとして「PROG試験」を実施している。当該試験受験の促進が課題。教授会等を通じ促していく。また、1年実施時のスコアと4年実施時のスコアの変化の検証を引き続き実施する。						
			実施																			
中高	①生徒の発達段階に応じた適切なキャリア教育の実施	中学・高等学校担当	計画											7～9月の間に、中学生には「職業調べイベント」「英語イベント」高校生には「主権者教育講演会」「日本工大進学ガイダンス」「大学進学ガイダンス」「大学生との交流会」「大学入学共通テストガイダンス」等を実施した（一部行事は特定の学年が対象）。	50	9月以降も、生徒の発達段階に応じた適切なキャリア教育の実施を目指す。						
			実施																			
(5)学生生徒主体のキャンパスライフ環境の整備・充実																						
大学	①新入生歓迎イベントである「春祭り」などの課外活動への支援、及びクラウドファンディングを活用した活動資金獲得の創出	大学担当	計画											学生自治会による新入生歓迎クラブ体験イベント「春祭り」の開催等、課外活動団体への加入促進活動を支援した。「夏祭り」などのイベントが、安全に実施できるよう事前講習会を開催した。学生自治会によるクラウドファンディングを活用した活動資金獲得について、オンラインチャリティイベント「GivingCampaign2026」への参画を支援した。	50	引き続き学生が充実したキャンパスライフを送れるよう支援していく。 年明けには、次年度に向けた準備を進める。						
			実施																			
大学	②学生支援に関わるハンドブックの作成、継続的な部署横断的運営等を通じた学生生活を充実させるための支援・取り組み、多様な学生への支援の充実	大学担当	計画											課外活動が、健全かつ安全・安心して行われるよう、課外活動ハンドブックを更新し、全課外活動団体を対象に説明会を実施した。新入生を対象とした入学前アンケートを実施し、関係部署に情報共有した。日本学生支援機構奨学金業務において、クラウドを活用し効率化を図った。また、民間奨学金を、掲示やサポータル配信にて全学生に対し積極的に案内し、申請を支援した。学期末に合理的配慮の更新会議を開催し、新学期の円滑なスタートを支援した。	50	経済的困難な学生に対する新たな給付型奨学金制度の制定を検討する。育英事業では学費を「貸与」として貸付（育英貸付金）しているが、今後は「給付」型奨学金制度として新たに制定する予定。なお、財源はみらい募金の奨学金事業及び育英寄付金としたい。						
			実施																			

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画	令和8年度													実行状況〔9月〕 (Do)	達成 度	課題と対応
		実施計画		実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(Check・Action)			
Ⅰ．変化対応力のある人材の育成	大学	③バリアフリー整備の推進、熱中症対策、多目的トイレの整備等アメニティの充実	大学担当	計画													令和7年度に引き続き本館、E1棟等各建物の段差解消やスロープ設置などバリアフリー化工事を進捗させた。また熱中症対策の一環として体育館の屋根に遮熱塗料を塗布する工事を実施した。その他、多目的トイレの設置、本館、W10 棟のトイレ改修工事を進めた。	50	熱中症対策に関し、クーリングボックスの導入、日よけを目的としたテントの導入等様々な施策を検討・実施してよりよい環境の整備に努める。	
				実施																
	中高	①日駒祭の中学3年・高校2年生のクラス参加、イベントの運営及びパンフレットの制作等、生徒の主体的参画の支援	中学・高等学校担当	計画													9月19日、20日の文化祭（日駒祭）のキャッチフレーズとして「個性輝く、この瞬間。」が示され、ポスターも出来上がり、クラス参加の準備も順調に進み、日駒祭は、盛大に終わった。（入場者数4,112組7561名）	100	－	
				実施																
	中高	②体育祭のパンフレット制作や競技種目の決定等、生徒の主体的参画のサポート・支援	中学・高等学校担当	計画													中学生は、11月の体育祭に向け、教員と種目やパンフレットの作成について検討を始めている。クラスの団結力を高めるため、早朝、昼休み、放課後等を利用し、練習に励んでいる。	75	11月8日（日）の開催に向け準備を進める。	
				実施																
(1)次世代に向けた持続的なガバナンス改革の推進																				
法人	④「攻め」のガバナンス改革に向けたステークホルダーからの意見吸収等、研修機会の設定	理事長事業企画・リスク管理担当	計画														環境の変化に対応した持続可能な学校法人経営の重要性に鑑み、令和8年度の役員向け研修会を11月に開催予定。	50	「私立大学経営の現在地とこれからの経営判断の選択肢」を仮題とし、役員として必要な識見を得る機会とする。	
			実施																	
法人	②本法人共通のプラットフォームを構成する横断的な業務として人事法務関連業務・組織の一体運営の試行	理事長事業企画・リスク管理担当	計画														研修プログラムに則った研修の企画、運営、及び法改正対応について、5月より大学・中高各部門との一体運営試行を開始し、カスタマー・ハラスメント対応及び就活ハラスメント対応の準備は完了、研修の企画、運営についても支障なく運営している。	50	令和8年12月25日施行のこども性暴力防止法対応については、中高部門との一体運営として役割りを明確にし、遅れなく取り組んでいく。	
			実施																	
法人	③内部統制システムの整備・運用と改善活動の定着化	理事長事業企画・リスク管理担当	計画														令和7年度の取り組み状況の自己点検結果等を踏まえ、中高の生徒等を守る取組みの一環として生徒指導勉強会を8月19日に開催、その他、個人データの委託先管理強化等、改善活動に努めている。	50	引き続き、年度を通じて、内部統制の有効性を確保するための運用及び整備に努めていく。	
			実施																	
大学	④大学部門で策定したアクションプランの進捗管理や検証等を行う内部質保証体制の構築	大学担当	計画														大学部門で策定したアクションプランの進捗状況をKPIも含めて確認、今後の実行プラン等について検討した。昨年度に続きガバナンス・コードに基づく実施状況の点検を実施した。また、学修ポートフォリオ、成長支援ハンドブックを活用した学修成果・学生の成長実感の可視化の仕組みを整備し、教授会において共有した。あわせて学生への理解促進と秋学期以降の入力・フィードバック等実装に向けての準備を進めた。	50	引き続き、より効果的・効率的なしくみ・運用について検討していく。	
			実施																	
大学	②法令への対応や教学マネジメント、ブランディングの観点からの積極的な情報発信	大学担当	計画														教学マネジメントやブランディングの観点からHPへの各種情報の掲出、大学案内や「出前授業プログラム・研究室インターンシップ」「カレッジマイスタープログラム」の発刊など本学ならではの教育研究活動をステークホルダーに訴求する情報発信を行った。また、9月には産学連携活動の促進、初年次教育や高大連携活動に資する「教員・研究照会（第4版）」を発刊した。	50	HP等を活用した情報発信は積極的に行っている一方、古い情報が掲出されたままとなっていることが散見される。これらの整理が課題。対応について検討していく。	
			実施																	
中高	①教育及び学校運営の機能向上と円滑化に資する「運営委員会」の運営	中学・高等学校担当	計画														毎週火曜日に学校の幹部12名による運営会議を開催し、教育活動や学校業務の円滑な運営と機能強化に資する議論を行っている。	50	今後も議論を重ねていく。	
			実施																	
中高	②学園事務局と連携した研修の実施と若手の登用の促進などによる計画的な人材育成の検討	中学・高等学校担当	計画														7月1日の「個人情報保護法改正研修会」、7月15日の「カスタマー・ハラスメント対応者向け説明会」、8月19日の「生徒指導勉強会」と充実した内容の研修行事を開催出来た。	50	10月の「新任管理職研修会」12月の「学生・生徒を守るための取組み」研修の準備を進める。	
			実施																	
(2)教職員のコンプライアンス意識の醸成と定着化(コンプライアンス体制の構築)																				
法人	①令和8年度研修プログラム、コンプライアンス推進等の取組み計画の策定、実施	事業企画・リスク管理担当	計画														令和8年度研修プログラムについては、適宜内容を検討・調整しながら、計画通り実施している。コンプライアンス推進等の取り組み計画については、概ね計画通り実施中。	25	7月に実施する計画としていたコンプライアンス・アンケートは、9月よりあらためて実施方法、内容の見直しの検討に着手している。	
			実施																	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画	令和8年度													実行状況〔9月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
		実施計画		実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
Ⅱ. 社会的要請に応える 自律的ガバナンス改革	法人	②教職員の積極的な意見具申を促し、改善等に活かす仕組み「学園提案箱」の認知度・活用度の向上に向けた取組み	事業企画・ リスク管理 担当	計画													令和8年4月の学園運営協議会を経て、令和8年度の「学園提案箱」活用に向けた取組み方針を定め、提案推進体制を明確化し、リーフレットを作成、説明会開催など地道な推進活動に着手。結果、5月以降7件の提案を受けている。	50	提案に対する対応方針を示し、改善等に活かしていく。	
	法人	③改正公益通報者保護法施行に向けた公益通報制度の見直しと適切な運用の啓蒙	事業企画・ リスク管理 担当	計画													令和8年12月1日を実施予定日とし、「学校法人日本工業大学 公益通報に関する規程」の改正案、及びHP開示資料の見直し案について、9月開催の理事会にて承認を得た。	75	改正法施行日に向けて、改正要旨等について教職員に周知していく。	
	(3)リスクマネジメント推進による組織対応力の強化(リスク管理体制の構築)																			
	法人	①リスクアセスメントの定期的な実施と対応方針に則った改善活動の取組み	事業企画・ リスク管理 担当	計画													令和7年度に実施したリスクアセスメント結果を踏まえ、改善の余地のある10項目について、対応方針に基づき改善に向けた取り組みを進めている。（個人情報管理・防犯管理・広報体制等）	50	令和8年度リスクアセスメントを実施すべく、9月より昨年度実施した「リスクの洗い出し」の見直しに着手している。	
	法人	②個人情報保護法改正を見据えた委託先管理体制等の見直し・強化	事業企画・ リスク管理 担当	計画													個人データの提供を伴う委託先に対し、書面にて個人データの取扱い状況を把握することとし、弁護士見解を経て「個人データの取扱いに関する質問票」を制定し、対応することとした。	75	毎年度10月に定期的に確認を依頼することとしている。	
	法人	③クライシスマネジメント体制強化に向けたリスク事象発生時の対応手順の見える化の検討	事業企画・ リスク管理 担当	計画													本法人に係る緊急かつ重大な危機事象が発生した場合の組織対応を想定した危機管理広報体制の検討に着手し、検討の方向性を決め、「危機管理広報 対応手順書」（案）を作成した。	50	11月開催予定の「学校法人日本工業大学 危機管理委員会」を経て、「危機管理広報 対応手順書」を定め、運用を開始する。	
	大学	①リスクアセスメントに基づくPDCAサイクルの実施など危機管理システムの着実な運用	大学担当	計画													不審者侵入対応の一環として防犯製品の導入、非常用通報システムを整備した。またキャンパス内の交通安全の一環として道路面に「指示表示」を設置した。その他毎月衛生委員会を開催。また熱中症対策等の検討、学内巡視、新入生対象の避難訓練等を行った。また、BCPの観点も踏まえグループウェアの導入を進めた。大学部門の総合的なBPCについては、引き続き検討を進める。昨年度実施したリスクアセスメントの結果に基づく進捗確認を実施、また今年度のリスクアセスメントを進めている。これらを通じ着実な運用の定着に努める。	50	昨年度実施したリスクアセスメント結果に基づく対応を検討・実施する。また、IT技術の活用も含めたBCPについて、引き続き検討を進める。	
	大学	②より効果的な安全教育、各種研修リスクアセスメントの結果を踏まえた実際の対処方法の検討・実施などの安全管理の徹底と安全教育の充実	大学担当	計画													教育改革シンポジウムにおける企画の一環として、7月に「世界の中の日本 ～情報セキュリティの観点から～」をテーマとした情報セキュリティ研修の開催した。また、同じく7月には、学校法人日本工業大学の研修プログラムとして、「個人情報保護法改正への対応」をテーマとした研修も実施した。	75	生成AIの急激な進展に伴い、世界的に情報インシデントリスクも高まっている。これに起因する情報インシデント発生リスクの低減に努める。また、情報インシデントに関しては業務委託先を含めた対応も課題。委託先へのアンケートによる確認を行い、その一助とする。 国際情勢を鑑み安全保障貿易管理のさらなる対応を検討する。	
	(4)教職員のキャリア形成支援に向けた取組み推進																			
	法人	①キャリア形成支援に基づく若手職員の他部署業務経験の検討、人事制度の導入検討着手	事業企画・ リスク管理 担当	計画													当初計画より着手が遅れたが、まずは大学部門における他部署業務経験の検討、及び「自己宣言シート」の運用見直しから検討に着手した。	25	将来に向けて検討を進めていく。	
	大学	①様々な研修、生成AIに代表されるIT技術の活用などを通じた人材育成と事務機能の効率化・高機能化	大学担当	計画													学園共通の職員研修の他、部門として各種研修等を実施すべく検討・実施している。また、令和7年度に引き続きIT,生成AI等の知識・技術の向上を目的としたオンライン研修を検討している。その他事務機能の効率化・高機能化の一環として学園共通の業務に一体的に取り組む体制整備の緒についた。	50	管理職、管理職候補者に対する研修計画の立案を検討する。また、生成AI技術を活用した窓口対応の効率化・迅速化・均質化など事務機能の効率化・高機能化を進める。	
	中高	①教職員の外部研修参加への取組み支援と自己啓発の促進	中学・高等学校担当	計画													国語科の教員が参加した「著作権問題に関する勉強会」、「東京学校図書館スタンプラリー」に図書館関係者3名、入試広報担当が「先生たちのホンネ座談会」、家庭科教員が「料理の方向性・食の監修」研修会、総務課教員が「人権問題雇用主」研修会等々への参加を通じて自己啓発に励んだ。	50	令和9年1月17日に音楽の教員が参加する「教職員音楽会」等、今後も積極的に外部研修会に参加するよう促す。	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画 実績	令和8年度													実行状況〔9月〕 (Do)	達成 度	課題と対応
		実施計画			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(Check・Action)			
Ⅱ．社会的要請に応える 自律的ガバナンス改革	中高	②教職員相互の授業観察、「自己評価シート」「自己宣言シート」を活用した教職員の能力開発	中学・高等学校担当	計画													教員は評価者との面談も終了し、「自己評価シート」も事務局に提出され、各自目標に向かって努力を重ねている。一方職員も事務長との面談も終わり「自己宣言シート」の内容に沿って、日々精進している。	50	12月開始の「2026年度の自己評価シート（実績）」の準備に入る前に、出来るだけ事務長による教職員との面談を進める。	
				実施																
				(1)学校経営の発展・充実に向けた安定的な学納金収入の確保																
Ⅲ．変化に備える財務体質の 改善	法人	①ブランディング力強化のため、各部門のHPのベンダー集約などの保守体制見直しに着手。また「NIT-Connect」を活かした对外発信を継続・強化	事業企画・リスク管理担当	計画													各部門HPのベンダー集約に向け、CMS統合に向け作業を継続している。学園情報システム部として、大学・MOT・法人HPの現行のシステム構成・保守体制を明確化し、ホームページ環境の統合に向け、関係各所と今後の進め方を協議していく。	50	CMS統合に向け対象となるホームページを選定し、統合に向けた推進プロセスの策定を進めている。課題として、各部門が保有する過去のコンテンツの確認方法、および移行要否を判断する体制の整備を進める。	
				実施																
	大学	①広報戦略の充実、普通科高校対象の高校訪問の拡充、オープンキャンパスの充実等による、より効果的な学生募集活動の推進	大学担当	計画													効果的な普通科高校を対象とした広報戦略の再構築を進めている。特に、重点高校を中心とした高校訪問の充実化を進めるとともに、これまで訪問していない高校への接触も図っている。また、沖縄、福岡および北海道の高校へのアプローチを開始し、地域拡大を進めている。オープンキャンパスについては、一般選抜の出願方法の変更に合わせて、入試説明会の内容を変更した。	75	引き続き効果的な普通科高校を対象とした広報戦略の再構築を進める。	
				実施																
	大学	②高大連携推進による諸活動を通じた高校・生徒等ステークホルダーとの信頼関係の構築・拡大	大学担当	計画													学生募集連携会議等を通じて、高大連携推進室と入試課の役割分担を明確化した上で効果的・効率的な連携が図れるよう仕事のプロセスの再構築を進めている。入試課では、個別校への訪問やガイダンス参加等により接触の機会拡大を図っている。高大連携推進室では、出前授業プログラム、研究室インターンシップ、DX/ハイスクール事業、総合的な探究の時間の支援等を推進し、連携協定校の拡充・連携強化を進めている。	75	引き続き関係部署間の効果的・効率的な連携が図れるよう業務のプロセスの再構築を進める。	
				実施																
	中高	①学校経営の安定化に資する募集定員の確保と適正な学納金の設定	中学・高等学校担当	計画													理事会で承認された令和9年度募集人数中学生240名、高校生140名、内部進学生200名の確保に向かって学校説明会を開催している。11月に東京都へ提出する学納金変更届の正式受理を待って12月以降の学校説明会から令和9年度入学生の学納金について周知する。	50	東京都私学部にて9月9日（水）「学費変更予定の申し出」をメールにて送付。9月21日（月）資料（事業活動収支計算書、学費変更内容、年間納付額対照表等）をメールにて送付。提出期限11月6日（金）「学費変更に関する学則変更届」の準備を進める。	
				実施																
	中高	②学習指導要領の改定に伴う教員スタッフの拡充やICT教育の更なる充実における教職員数の適切な管理	中学・高等学校担当	計画													新任教師募集に向け、ホームページや私立学校協会ホームページに案内を掲載し、応募者に対する採用試験を進めている。	50	9月末から10月初旬までに新任教諭の採用内定者を確定させる。	
				実施																
(2)組織・業務の効率化、設備の効率化等によるコスト構造の見直し																				
法人	①中期財務計画の要員・人件費計画との乖離状況のフォローと、事業活動収支均衡計画の実効性確保策の検討	財務担当	計画														令和7年度の人件費及び令和8年度の教職員数は計画内に収まった。経常収支差額は依然として赤字ながら、赤字幅は前年度比で123百万円、計画比では414百万円縮小している。	50	計画人数を上回った専任教員の人数抑制策を検討する必要がある。	
			実施																	
法人	②長期修繕計画と、埼玉キャンパスの複数の建物の機能集約化及び利用度の低い建物の廃止の検討	財務担当	計画														駒場キャンパスの本校舎の長期修繕計画の策定に着手した。埼玉キャンパスでは、開学当初の昭和40年代に建築された多くの低層棟を中心にリストアップし、取壊しの可否について検討を開始した。	25	建物の集約・取壊しについては、多方面の利害調整に意を用いる必要がある。	
			実施																	
大学	①不要な資産の整理等による資産管理の適正化及びICタグ・バーコードを活用した資産管理の効率化	財務担当	計画														ICタグ・バーコードを活用した資産の現物確認を実施中。大学内を2グループに分け、第1グループの確認を先行して進め、資産管理の適正化と効率化を図っている。	50	PC、図書等の適切な廃棄等を図り管理対象のスリム化を進める。	
			実施																	
中高	①学園創立120周年記念建設事業（通用門と入試広報施設の建設）の年度内竣工	中学・高等学校担当	計画														地下、1階、2階のスラブが終わり、予定の行程通り工事は進んでいる。	50	年度末（3月31日）の竣工に向けてしっかりと進めていく。	
			実施																	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務	計画	令和8年度													実行状況〔9月〕	達成度	課題と対応
		実施計画	執行理事	実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(Do)	(Check・Action)		
Ⅲ．変化に備える財務体質の改善	(3)教育・研究を起点にした産官学連携等による外部資金獲得増強																			
	法人	①「知の総和」答申の趣旨を踏まえた産官学連携への取組み推進	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													4月に宮代町によるふるさと納税説明会に出席、6月には文科省主催「Mext×Funds Forum」に参加、その他異業種との個別の意見交換、提案などを受けつつ、取組み方針を整理している。	25	具体的な成果には至っていないが、卒業生とのつながり強化の視点から検討を進めたい。	
	法人	②学園創立120周年に向けた周年募金事業の展開による記念建設事業への取組み推進	財務担当 事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													企業・団体への募金活動を本格化する。各部門でリスト化した約410件に対し、募金趣意書等の送付および訪問を予定している。あわせて、教職員個人へも新たに依頼を行い、賞与天引き等を利用した募金活動を実施する（9/30日現在 217件 ¥7,540,000円）。	75	学園創立120周年を翌年度に控え、募金目標額を達成すべく、企業・団体は募金実績のある会社を選定し実施する。	
	大学	④外部資金獲得時のインセンティブ予算の仕組みの見直し、若手研究者への支援などを通じた研究活動の活性化	大学担当	計画													研究活動を適正かつ円滑に推進するため、7月に「教育研究推進のための説明会」を開催し、研究者に求められる各種ルールや研究倫理、コンプライアンスに関する事項について周知を図った。また、若手研究者支援の一環として、科学研究費助成事業（科研費）への応募に際し、申請書作成支援を行う外部専門業者の活用を積極的に促進した。さらに、外部資金の獲得機会の拡大を目的として、月1回の頻度で「外部資金公募情報」をプッシュ型で配信する取組を開始し、研究者への迅速かつ継続的な情報提供体制の強化を図っている。	75	科研費の更なる獲得に向けた詳細な分析を進める。また、研究資金の拡充等を目的としたクラウドファンディング実施の緒についた。詳細な制度設計や、運用状況の検証等を行っていく。	
				実施																
Ⅳ．発展と調和に貢献する社会的価値の持続的創出	(1)本学が有する教育研究資源を活かした社会貢献、社会実装																			
	法人	④大学、中高における教育・研究の取組み、成果を内外に効果的に情報発信していくための広報体制を検討	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													本法人共通のプラットフォームを構成する横断的な業務として、広報体制のあるべき方向性の検討を進め、まずは現実的な備えとしての一歩として、危機管理広報体制の検討の方向性を決めた。	50	今後とも、長期的な視点に立ち、本法人としての広報体制を検討していく。	
	大学	④地元自治体や地場産業等との関係強化を図ることによる学外に向けた社会連携成果のブランディング化と知の好循環	大学担当	計画													前年度の執行会議において承認された「社会連携系センターの運営等の見直し」の方向性（情報共有・予算執行・調整方法の明確化など）に則り、社会連携系各センターとの緊密な連携・協力のもと、見直し後の運営体制の円滑な移行と安定的な運用の定着に向けた取組を推進している。また、7月には社会連携系センター会議を開催し、各部署が抱える課題について共有を図るとともに、対応策の検討を行った。	50	引き続き社会連携系センターが抱える課題について対応策の検討を進める。	
				実施																
	大学	②スマート農業センターの諸活動を通じた農業分野への実工学的アプローチ	大学担当	計画 実施												外部資金の獲得に継続して挑戦するとともに、確保した研究資金を活用し、工学技術による農作業の省力化・効率化の実現を目指したスマート農業関連事業を推進している。さらに、当該分野における研究・社会実装の推進拠点として「スマート農業センター」の整備を進めており、7月には開所式を開催した。	50	スマート農業センターの活動をより充実したものとするために「ひと・もの・かね」等も含めた運営体制について、センターからの提言も踏まえて検討する。また、同種のものとして、水中ロボットに関する実験装置（水槽）の運用・体制整備があげられる。これに関しても検討を進める。		
	大学	③社会人向けリカレント教育プログラムの具体化	大学担当	計画													社会人向けリカレント教育プログラムに関しては、データサイエンス系のプログラムの内容、科目構成、受講費用との検討を引き続き進めている。	50	今後、各種リスクリングの需要が一層高まることが予測される。これらのニーズへの対応について、対応可能かどうかも含め幅広く検討していく。	
				実施																
	(2)DXによる組織風土の変革への取組み推進																			
法人	④本法人として共通のプラットフォームを構成する横断的な業務の視点から、本法人の組織の見直しを順次検討のうえ実施	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施														令和8年4月に第一ステップとして法人事務部に法人企画室を統合するなど組織改編を実施、5月には第二ステップとして人事法務関連業務について大学・中高各部門との連携体制の見直し試行を開始。9月には、危機管理広報体制の整備の方針を決めた。	50	危機管理広報体制については、11月開催予定の「学校法人日本工業大学 危機管理委員会」を経て、運用を開始する。	
法人	②効果的かつ効率的な会議運営を図ることを目的とした諸会議に関する運用ルールの明文化	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													7月より、検討を開始すべく、諸会議に関する運営ガイドラインの案を作成し、大学・中高各部門との協議を進めている。	50	運用可能な運営ガイドラインとして制定する。		

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和8年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画	令和8年度													実行状況〔9月〕 (Do)	達成 度	課題と対応
		実施計画		実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(Check・Action)			
Ⅳ．発展と調和に貢献する社会的価値の持続的創出	法人	③教職員の健康と働きやすい職場環境の構築に向けた取り組み推進	事業企画・リスク管理 担当	計画													働きやすい職場環境構築の一環として、教職員の健康支援に向けた基本方針を明文化、5月に「職場復帰プログラム」を制定して運用を開始した。また、カスタマー・ハラスメント対応として「応対者の心得」を作成し、説明会を開催するなど、体制を整えた。	50	オンライン診療サービスの導入検討など、今後とも取り組み推進に努めていく。	
				実施																
	法人	④ネットワーク機器の更新と、ゼロトラストの考え方に基づくセキュリティ耐性の強化	事業企画・リスク管理 担当	計画													2017年度に導入したネットワーク機器の更改は予定通り完了した。ゼロトラストの考え方に基づき、国際標準に基づくサイバーセキュリティフレームワーク(NIST CSF2.0)を用いた自己点検・第三者評価を通じて課題の洗い出し、課題に対する対応を進めている。	50	セキュリティの強化と利便性の向上を目的とした、全学園を対象としたネットワーク機器の更改は完了した。NIST CSF2.0の自己点検・第三者評価からの課題についてはタスク化し、スケジュールに基づいて対応を進めている。サイバーセキュリティに係る環境は変化のスピードが速いため、それに追従することが課題となるが、通常時からトレンドの確認を継続することで漏れのない対応をしている。	
				実施																
	大学	①人員配置、生成AI技術の活用、アウトソーシングの検討などを通じた組織体制の整備充実	大学担当	計画													4月、学長の補佐機能の充実を目的に学長室を、学生募集体制の強化を目的に「学生募集戦略会議」を設置した。併せて学生募集連携会議規程を制定し同会議を公式な会議に位置付けるなどの整備を行った。同じく4月「業務DX担当」を任命し、生成AIの活用等の検討を開始した。引き続きより良い組織体制の整備・人員配置等の検討を行った。	50	限りのある資源の中でいかに機能的な体制を整備するかが長期的な課題。引き続きよりよい組織体制の整備・人員配置等について検討を行う。	
				実施																
	大学	②働き方改革として取り組むべき課題の抽出や法令に対応した新たな「働き方」の検討	大学担当	計画													4月、就業規則等を改正し、週休2日制の本格導入を開始した。また、今年度策定された学校法人日本工業大学職場復帰・復帰支援プログラムに基づき、復職した職員に対して産業医と連携しながら勤務時間等について柔軟な働き方を支援している。なお引き続き「働き方改革」として取り組むべき課題や法令に対応した労務の検討を行っている。	50	今後予定されている労働関連法令改正に向け対応を検討する。また、時間外労働に関する健康確保措置の運用について検証、必要に応じて改善を行う。	
実施																				
(3)サステイナブルな社会実現のための持続的・多面的な取り組み推進																				
法人	①サステイナブルな取り組みを産官学金連携へと発展させていく観点から、取り組み機能の高度化、成果の内外への情報発信を推進	事業企画・リスク管理 担当	計画														教職員限定学園サイトを活用した法人内における取り組み内容の共有化を継続的に実施。9月には大学環境マネジメントシステム活動の適切性について、サステイナブルボード外部監査を実施した。	50	ネイチャーポジティブの観点から新たな連携の可能性を検討していく。	
			実施																	
大学	①サステイナブルでウェルビーイングな社会の実現に向けた、持続的・多面的な取り組みの深化と創造	大学担当	計画													4月、Fセミナーで学生へのEMS・SDGs教育実施、新入教職員対象EMSガイダンス実施。5月、EMS全員大会実施（SDGs活動補助金制度活用 of 研究成果発表）6月、宮代町地域連携「ロココナイト」へ学生によるワークショップ出店。7月、埼玉県グリーン人材ネットワークへ学生が参加。8月、宮代町民まつりでの美化委員会運営と子供向け工作ブース出店（無料）。9月、学生環境推進委員会「学内廃棄物データ化PJ」に伴う、廃棄物処理事業所視察を実施。EMS推進協議会において学生環境推進委員会との意見交換実施。	50	サステナブルボード監査において提言された課題（各階層間の連携や展開など）等への対応を検討する。		
			実施																	
中高	①SDGsの理念に基づく取り組みとエコキャンパスイメージの醸成	中学・高等学校担当	計画													令和8年エコキャンパスプランに沿った①ホップによる緑化のホップの実も順調に育ち9月25日に収穫も終わった。②ニホンミツバチ飼育も現在4群に増え、採蜜の時期を迎えている。③ミミズの新飼育BOXの設置工事の日駒祭に間に合う予定で工事は進んでいる。	75	日駒ホップを活用した日駒ピールは、製造に向け準備を始めた。採蜜を行う準備を進め、ミミズ飼育BOX工事の完成を見守る。		
			実施																	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする